

司会者の仕事

イベント会場や披露宴、ご葬儀などでプログラムに沿って司会進行します。シーンごとに相応しい言葉、声の抑揚、所作などにより雰囲気を作ったり、予定外の出来事に臨機応変に対応したりすることが求められます。

仕事で大切なこと

限られた時間の中で、お客さまの気持ちを丁寧にみ取り、いかにその心に寄り添えるかが大切です。お客さまは十人十色です。どのように事を進めてほしいのか、どうしたら喜ばれるか。司会者の自己満足で終わることがあってはいけません。

仕事のやりがい

人生の節目をお手伝いさせていただけれることです。「心を込めて、お客さまの感動をお手伝いしたい…」この司会者の想いが、まさにお客さまの求められる気持ちと合致した時に、仕事のやりがいを感じます。



司会者

久保裕絵さん
下関市出身

仕事図鑑

このページは、小・中学生、高校生を対象に市内で働く人・職業を紹介しています。先輩たちのメッセージを参考に、未来の自分を探してみませんか。

最初の夢は「声優」でした

趣味でもある漫画やアニメを観て「このキャラクターはこの声だよね！」と幼少期から声を使う仕事に憧れを持っていた久保さん。学校でも放送部に入りたい一心で、入部試験を通して「音に乗せる（放送する）からには」という思いで部活動に励みます。

就職先は悩んだ末、「声を生かすことに加え、働くことで自身の内面も成長させたい」という基準で選んだそうです。立ち振る舞いから心の在り方まで磨きがかかる仕事です。

「例えば、先日のご葬儀では、自宅から故人を温かく見送りたいという家族の想いがありました。何気ない会話の中でご家族が『故人の愛称』を大切にしているの気が付き、私も愛称で呼ばせていただきました。一つの正解だったかもしれませんが、同じことが他の家族に当てはまるとは限りません。寄り添いを積み重ね、お客さまの気持ちに添えたいです。日々仕事を通じて、さまざまな人間模様や家族愛、命の大切さを学んでいます」



しものせき未来創造jobフェアでのマナー・司会講座の様子



司会進行の打ち合わせ



皆さんが司会者にならなくても、社会に出れば、マイクを持って人前で話す日がきっと訪れます。

お客さまの人生の節目「その1日」を形にし、彩るために、会場の各関係者と打ち合わせをします。